

香港、広州における大学入試に関する調査

入学センター 杉原敏彦、高地秀明、永田純一

平成 29 年 9 月に、香港と広州にある国際バカロレアディプロマプログラム (DP) を実施している高校 (Island School(香港)、Utahloy International School Guangzhou (広州)) と高校生の受け入れ側となる香港教育大学を訪問し、両都市における大学入試に関する調査を行いました。

香港では、English School Foundation(英基學校協會)のメンバー校である Island School にて、2 名の先生 (進路カウンセラー、日本語教師) に加え、広島大学に関心をもつ 3 名の高校生と懇談を深めることができました。話をしてくれた生徒は、自分自身の考えをきちんと伝えることができているのが印象的でした。出願要件である Higher Level の科目や DP スコアの基準点、そして面接の内容について特に関心を示していました。同校はじめ香港の各高校には日本への進学に興味がある日本人以外の生徒も多くいるということが分かり、今後の本学からの継続的な情報提供が望まれます。

さらに、香港教育大学では、入学者選抜に関わる職員 2 名から、香港における大学入学選抜方法の概要、選抜プロセス、そしてかかわるスタッフ等の体制・役割等、選抜の全体像を把握するための大変有益な情報を得ることができました。各大学への入学者選抜をまとめて管理している JUPAS (Joint University Programmes Admission System) と呼ばれるシステム、さらに、2012 年から新たに実施された新中等教育修了試験 : HKDSE (Hong Kong Diploma of Secondary Education Examination) についても詳細な最新の動向をお聞きし、中等教育がこれまでの 5 年間から 6 年間のカリキュラムに改革されたことも含めて、まさに改革期にある香港の大学入試の現場の雰囲気を感じることができました。

一方、広州では、国際バカロレアディプロマプログラムを実施している Utahloy International School Guangzhou (UISG) を訪問し、2 名の先生 (進路指導、日本語教師) と情報交換を行うことができました。さらに、日本人の生徒とその保護者 (10 名程) へ本学の紹介をする機会も与えていただきました。多くの日系企業が進出している広州では、駐在員家族の子どもの大学進学先として、日本国内の国立大学は大変魅力的です、という声を多く耳にしました。

このように、広州、香港には、英語による学士課程プログラムへの志願者のみならず、日本語による通常のプログラムも含めて、本学への志願者が潜在的に多数見込まれます。今後の継続した本学からの情報提供が強く期待されるところです。



Island School の生徒と先生



UISG の先生 (カウンセラー)



香港教育大学の入試職員